

2 ページ

Basic Information / 基本情報

Duration / 開催期間

説明：～年～月 から ～年～月まで

2012年03月11日～

Staff / スタッフ

説明：青年会議所メンバーの参加人数

例：何人 ○○member

50 Members

Sponsors / 支援者

説明：青年会議所以外のメンバーがいる場合のみ記載してください

例：○○市ボランティア団体等

仙台市役所 市の有識者（1395名）

市民ボランティア150名

Budget 予算

説明：ドルで表示してください。

例：1万円なら one hundreded dollar

2012年

¥1,000,000=\$10,000

2013年

¥1,980,000=\$19,800

2014年

¥2,300,000=\$23,000

Profit / Loss 利益／損失

説明：基金を集めること以外は、0にしてください

0

Which UN MDG best fit (if Apply)? UN MDGs の該当項目（もしあれば）

説明：

コメントの追加 [Wユ1]: 事業全体にかかった最終的な予算の額のはずです。

Who is benefited? 誰の為に?

説明：活動エリアに住み暮らす人々 人

仙台市に住み暮らす市民 100万人

Objective 目的

説明：(例1) 子ども対象の事業をベースにして、参加者とメンバーの意識や変革を促し前向きな変化を創り出すため

JCI 仙台は下記の内容を目的にした。

- ① 今後、発災が予測される災害に対して、能動的市民が、復旧、復興活動や減災への取り組みに、自発的且つ積極的に行動することを目指す。
- ② 市民同士が震災時の行動指針を共有する事で、市民の防災意識改革を促し、災害に強い都市「仙台」を目指す。

Overview 概要

説明：必ず結果と合致しているはず

JCI 仙台は、東日本大震災翌年から仙台市と連携し仙台市中心部の広場で03月11日に追悼式典を行っている。

- ・今年で3回目を迎えた追悼式典では市長や市民が復興へのメッセージを発信し、個人と地域社会が防災意識の向上と防災に強い都市へと発展することについて情報発信した。
- ・JCI 仙台は、2014年から「黄色いハンカチプロジェクト」をスタートした。「黄色いハンカチプロジェクト」とは、仙台市の各世帯に黄色いハンカチを配布し、東日本大震災発災日の毎年3月11日と、災害発生時にも活用し安全を考えるシン

ボルとして採用している。」

- JCI 仙台は、毎年 0 3 月 1 1 日にみんなの安全を考えるシンボルとして、黄色いハンカチを玄関等に掲げるように 2, 3 9 5 世帯に配布した。
 - その結果、今後、震災が起きた際に玄関等に黄色いハンカチを掲げ「我が家は大丈夫、他を助けてください」という利他の心を持ち、同胞愛を持った市民になるようになった。
- ※黄色いハンカチは今後、追悼式典で配布していき、2 0 2 1 年度までに仙台市民 1 0 0 万人に配布するために、市の有識者と協力し、全世界帯へ配布する予定。

Result 結果

説明：複数の短い文章になるように注意してください
目的がどのくらい達成できたか書いてください
上記の結果の想定外の結果を書いてください
上記の結果の確認方法を書いてください
検証結果を簡潔に書いてください

- J C I 仙台は、追悼式典を通して、1 6, 0 1 2 名の市民に防災について行動する機会を提供した。(学生 1 0, 0 0 0 名 ボランティア 1 5 0 名 市民 5, 8 6 2 名)
- J C I 仙台は、年 2 回開催される仙台市内全ての市の有識者の代表者が集まる総会に出席し、市の有識者 1, 3 9 5 名に黄色いハンカチプロジェクトを伝える機会を得た。
- J C I 仙台は、1 6, 0 1 2 名参加した追悼式典参加者のうち、黄色いハンカチを掲げることを希望した 1, 0 0 0 世帯に黄色いハンカチを配布し、主体的に行動する市民を創出した。
- 仙台市は、国連国際防災戦略事務局 (U N I S D R) が実施する「世界防災キャンペーンにおいて、世界で 3 5 都市目のロール・モデル都市」に認定された。
- 「ロール・モデル都市」とは、国連が、持続可能な都市化を実現し、災害に強い都市を構築するためのきっかけとすることを目的に 2 0 1 0 年から 2 0 1 5 年まで実施している防災キャンペーンの一環として、参加都市 (約 1 4 0 0 都市) のうち、世界各国の防災の模範となる取り組みを実施している都市を選定して認定するもの。
- J C I 仙台は第 3 回国連防災会議にも黄色いハンカチプロジェクトを紹介し、世界に広めるよう仙台市と協議を始めた。
- J C I 仙台は第 3 回国連防災会議に参加することで、仙台市と協力して市民協働の取り組みと、コミュニティレベルで減災推進をする「市民力」で災害に強い「仙台」を目指した。
- 仙台市長が 2 0 1 5 年に仙台で開催される第 3 回国連世界防災会議にて黄色いハンカチを会議参加者へ配布することを表明した。

コメントの追加 [Wユ2]: 主語と述語があっていません。J C I 仙台が採用している、ということは、仙台市の各世帯に仙台 J C I が配布したことになるがその意味合いで良いですか? 下の説明と矛盾します。

コメントの追加 [Wユ3]: この文章ではありませんが、なぜ「黄色」なのかも追記したら世界の人にはわかりやすいでしょう。

コメントの追加 [Wユ4]: 非常にわかりやすい説明です。でも一文が長いのでもう少し切って書いてください。

コメントの追加 [Wユ5]: 協働、共働、共同、いろいろな表現がありますので、英訳する際に文章の意味が伝わるように間違えずに訳してください。

Actions Taken 行動

説明：

(PLAN)	
仙台市と協議の上、災害に強い都市「仙台」を目指し追悼式典を計画した。	
(PLAN 1)	
2011年12月	東日本大震災で犠牲になった方々への追悼の意とその際に世界中の支援に対する感謝の意を表すため、亡くなった方々の鎮魂の意味を込めてキャンドルナイトを計画した。
(D01)	
2011年09月	仙台市民の強い要望により仙台市と追悼式典の開催について、協議を始める。祈りを捧げるために、キャンドルナイトを開催することが決定した。
2011年10月	仙台市と追悼式典実施時の役割分担について協議
2011年11月～12月	仙台市と細かい調整を進めた。
2012年01月	ボランティアの募集開始。民間ビル管理会社との打ち合せ。プレスリリース開始。
2012年03月11日	追悼式典開催。ノーベル平和賞受賞者ムハマド・ユヌス博士が来所し「失われた命を無駄にせず自然と調和した世界を創っていき、この地球上の皆の生活が良くなるように」との想いを込めたスピーチをした。 3,000個のキャンドルをJCI仙台のメンバーとボランティアが一つ一つ手作業で7m×19mの「ありがとう」の文字を作った。さらに、仙台市役所に「3.11」、民間のビルの窓に「絆」のメッセージをライトアップした。※別紙1参照
(PLAN 2)	
2012年12月	追悼の意と災害に強い街を創造するために、キャンドルナイトを計画した。
(D02)	
2012年12月	仙台市と追悼式典の内容について協議一回目 仙台市と追悼式典の内容について協議二回目
2013年01月	仙台市と追悼式典の内容について協議三回目。ボランティアの募集開始。民間ビル管理会社の打ち合せ。プレスリリース開始。
2013年02月15日	小・中学校とキャンドルを入れる器に、復興に向けたメッセージを依頼した。
2013年03月11日	追悼式典開催。キャンドルで「かがやけ仙台」の文字を作った。また、仙台市役所に「3.11」と民間のビルの窓には「こ

コメントの追加 [Wユ6]: 内容はOK、文章を分けた方が良いと思います。

コメントの追加 [Wユ7]: 必要かどうかは英訳した際の文字数で判断してください。

コメントの追加 [Wユ8]: もしかけるなら〇〇個を、という具体的な記載をしてください。ちなみに約2000個のはず。

ころをひとつに」のメッセージをライトアップさせた。

※別紙2参照

(PLAN3)

2013年12月 追悼の意と防災喚起を目的にキャンドルナイトを計画した。

(DO3)

2013年11月 仙台市と追悼式典の内容について協議一回目

2014年01月 仙台市と追悼式典の内容について協議二回目

2014年02月 仙台市と追悼式典の内容について協議三回目

2014年02月12日 有識者と協議黄色いハンカチの使用方法和配布方法を協議。

2014年02月18日 町内会に黄色いハンカチ10,000枚配布

2014年03月11日 追悼式にて、黄色いハンカチ2,000枚配布し、啓蒙活動を実施。キャンドルナイトでは、「しあわせ」の文字を作った。また、仙台市役所に「3.11」と民間のビルの窓にも「しあわせ」のメッセージをライトアップさせた。※別紙3参照

2014年03月12日～ 第3回国連防災会議での黄色いハンカチプロジェクトの概要説明と黄色いハンカチの配布方法について、仙台市と協議中。

コメントの追加 [Wユ9]: ??

Recommendations 考察や推奨

目的のうちどの部分が達成されたのか？

達成できなかった部分は、何か？

それは、なぜか？その改善策は？

JCI 仙台は、追悼式典、黄色いハンカチプロジェクトを通して、下記の内容で目的を達成した。

① 追悼式典に参加した市民が、黄色いハンカチプロジェクトに共に行動し、復旧、復興活動や減災への取り組みに対して、より積極的に活動する能動的市民になった。なぜなら、回収したアンケート10,000枚の内8割の市民から、黄色いハンカチプロジェクトを推進したいという積極的な意見があった。

② 市民の防災意識を向上させた。なぜなら、黄色いハンカチを受け取った2,395世帯が実際に黄色いハンカチプロジェクトを実施したから。

③ 市民同士が震災時の行動指針を共有する事で、市民の防災意識改革を促し、災害に強い都市「仙台」を目指した。なぜなら、仙台市は、国連国際防災戦略事務局（UNISDR）が実施する世界防災キャンペーンの「災害に強い都市の構築」において、世界で35都市目の先進的な防災都市「ロール・モデル都市」に認定されたから。

コメントの追加 [Wユ10]: これはどこから来た10000枚？前の部分の参加員数と合わないかな？

コメントの追加 [Wユ11]: 災害時の行動指針の方が良いのでは？

部門 Long term Local Community program

3 ページ

Objectives Planning Finance and Execution

目的・計画・財務・実施

What were the long term objectives of this program

このプログラムの目的は？基本情報に詳述して下さい

このプログラムの目的は、市民一人ひとりが防災意識を高めアクティブシチズンとなり、災害に強い都市を構築すること。

How does this program align to the JCI Plan of Action?

この事業は、どのようにJCIの活動計画と合っていますか？

- 「 The service to humanity is the best work of life.」
- ・ JCI 仙台は、数多くの若き能動的市民や行政と協働で行動し、以下の活動計画を実施した。
 - ・ JCI 仙台は、若き能動的市民と行政と協議して、災害が発災しても防災に強い仙台を目指すために事業を協議した。
 - ・ JCI 仙台は、協議した結果「黄色いハンカチプロジェクト」を計画し市民と行政とともに実施した。
 - ・ JCI 仙台は、将来的には追悼式典と黄色いハンカチプロジェクトを仙台市とポジティブチェンジした市民に引き継ぎ、市民が市民を啓蒙していくよう促した。
 - ・ 上記の結果、能動的市民が周囲の市民に活動を伝播する事で、長期的地域社会開発に向けて行動する市民が4,000名増えた。

コメントの追加 [Wユ12]: 表現を精査

コメントの追加 [Wユ13]: ここは今年のJCI会頭の所信にもあるところなので、うまく活用してください。

Was the budget an effective guide for the financial management of the project?

予算は事業の財務管理のための効果的なガイドになりましたか？

この事業をより効果的に発信するために広報に関して工夫した。

- ・事業の告知を地元メディア9社に対して、積極的に行った。
- ・事業に賛同した地元テレビ局5社・ラジオ局3社・新聞社1社が取材に来た。
- ・黄色いハンカチプロジェクトの説明をした映像を作成し、追悼式典会場の200インチの大スクリーンで放映した。

2012年度予算総額	10,000 US dollar
・会場設営費	9,710 US dollar
・広報費	0 US dollar
・雑費	290 US dollar
2013年度予算総額	19,800 US dollar
・会場設営費	16,165 US dollar
・広報費	2,751 US dollar
・雑費	884 US dollar
2014年度予算総額	23,000 US dollar
・会場設営費	12,506 US dollar
・広報費	9,454 US dollar
・雑費	1,040 US dollar

コメントの追加 [Wユ14]: インターネットでの映像公開や事業の映像が多数アップされていることも加えたら?

How does this project advance the JCI Mission and Vision?

どうやってこの事業は、JCIのミッションと、ビジョンを推進しましたか? ビジョンとミッションに分けて明確に詳述してください。

ビジョン (若き能動的市民のトップ・グローバルネットワークになる)

- ・JCI 仙台は、市の有識者1,395名に黄色いハンカチプロジェクトを伝え、仙台市民に広く伝える環境を整備した。

ミッション (青年が積極的な変革を創造し開拓するために能動的に活動できる機会を提供する。)

- ・共に追悼式典に参加した市民が、キャンドルナイトや黄色いハンカチプロジェクトを通して、更に他の市民へ防災意識改革を促した。
- ・追悼式典と黄色いハンカチプロジェクトにより小中学生、ボランティア、関わった仙台市民すべてに、ポジティブチェンジの機会を提供した。

ページ4

By number, how many members were involved in this program?

事業のスタッフは、何人? 数字で記載してください

34人

By percentage how many members of the Local Organization were involved in this program?

LOMメンバーの参加率は、何パーセントですか？%で記載してください

108人 57%

ただし、当日はメンバーの家族や親族の命日となる人も多いため、自主参加とした。

Describe the main roles of the participating members in this program

このプログラムで参加しているメンバーの主要な役割を簡潔に記述してください

- ・黄色いハンカチの配布（108名）
- ・会場設営（42名）
- ・仙台市と追悼式典の内容について打ち合せ（15名）
- ・市の有識者と黄色いハンカチプロジェクトの打ち合せ（5名）
- ・小中学生へのキャンドルの入れ物に復興に向けたメッセージ記入依頼（23名）
- ・市内へのチラシ・ポスターをPRのために配布（21名）
- ・キャンドルナイトでのボランティア協力依頼（9名）
- ・HPでの追悼式典と黄色いハンカチプロジェクトの告知（3名）

ページ5

Community Impact 地域社会への影響

How did the Local Organization measure community impact for this program

どのように、LOMは、このプログラムのために地域社会への影響を測りましたか？

・事業に参加した市民にアンケートを取り、プロジェクトの実施状況を図った。
アンケート回収数10,000枚のうち8割が黄色いハンカチプロジェクトを推進したいという結果が出た。

Q1.しあわせな黄色いハンカチプロジェクトはご理解いただきましたか？

YES 8,896人 NO 1,104人

Q2.これを機会に黄色いハンカチプロジェクトに取り組んでいこうと思いますか？

YES 8,032人 NO 1,968人

Q3.今回の事業に参加された前後で、東日本大震災に対する思いに変化はありましたか？

YES 7,116人 NO 2,884人

・各メディアが事業の重要性を報道したこと事業に対する評価を客観的に得られた。

① 地元テレビ放送局のニュースに取り上げられ事業の重要性を伝播した。

(視聴世帯：89万世帯)

コメントの追加 [Wユ15]: 3年間通算ですか？

コメントの追加 [Wユ16]: 上記項目が完成したとしても少し変わりますよね。特に今回はスルーで。

コメントの追加 [Wユ17]: 連続して参加しているボランティアが増えたという具体的な影響も記載したら良いと思います。

② 地元新聞社に事業の記事が掲載され事業の重要性を伝播した。

(発行部数：47万部 推定購読者数：150万人)

※別紙4・5参照

Describe the actual community impact produced by this project

このプロジェクトによって発生される実際の地域社会への影響を記述してください

- ・事業に参加した市民がポジティブチェンジして、意識の高い防災活動を展開することが国連に評価をされロール・モデル都市「防災に強い都市」に認定された。このことにより、次に災害が発災しても地域社会「仙台」は最小限の被害で災害を乗り越えられることが考えられる。

コメントの追加 [Wユ18]: もし、地域社会に住まう市民への影響も書ければ追記してください。

ページ6

Impact on Local Organization LOMへの影響

How did the Local Organization benefit from running this project?

どのようにLOMは、この事業を運営することから利益を得たか?

JCI 仙台は、第3回国連世界防災会議に参加する機会を得た。

JCI 仙台は、小・中学校との関係を構築したことで、JCの認知度が上がった。

市民は、減災への取り組み方が具体的ではなかったが、追悼式典と黄色いハンカチプロジェクトを通して能動的市民が増えた。

コメントの追加 [Wユ19]: メンバー数の増加なっかも入れたら良いと思います。

How did the program advance the JCI Mission?

どのようにJCIミッションを推進したのか?

JCI 仙台は、以下のように JCI ミッションを推進した。

- ・震災時に行動指針を伝えることで、能動的に行動する機会を提供した。
- ・アクティブシチズンが一般の市民をプロジェクトに参加させることで、一般市民をポジティブチェンジさせた。

コメントの追加 [Wユ20]: 災害

ページ 7

Long-term Impact of the Program プログラムの長期的な影響

What is the expected long-term impact of this project?

このプロジェクトの期待される長期的な影響は、なんですか？

JCI 仙台は、追悼式典と黄色いハンカチプロジェクトを通して、市民の防災意識を向上させ、地震や津波災害時に能動的に行動する市民を継続的に構築することが期待できる。

仙台市は、「ロール・モデル都市」に認定されたことをきっかけに長期的に災害に強い都市「仙台」を構築している。

What changes Would you make to improve the results of this project?

このプロジェクトの結果を改善するために、どんな改善策がありますか？

本年度より実施された黄色いハンカチプロジェクトで、実際に黄色いハンカチを掲げた世帯が仙台市全世帯の 0.5% に留まった。今後より多くの世帯に実施してもらえよう、市民から市民へ伝わっていくような仕組み作りを考えていく必要がある。

- ・プロジェクトの方法を事前にテレビやラジオ、新聞で伝える方法を取る。
- ・毎月 11 日に街頭にて、一般の市民が黄色いハンカチを配布していくことで、ポジティブチェンジが伝播していく。
- ・教育関係団体へ黄色いハンカチプロジェクトをさらに伝えていく。(全小中学校・高校・大学・専門学校)